

平成21年度地域公共交通活性化・再生総合事業の概要

大分・別府都市圏公共交通活性化協議会



公共交通活性化に向けた課題

- 課題
- 1 ユニバーサルデザイン化
 - 2 観光客への安全で快適な旅の提供



本地域における各特性等から把握した解決すべき課題は次の通りである。

項目	把握した問題	必要な対策	解決すべき課題
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客や留学生への対応 ・高齢化への対応 ・障がい者への対応 	ユニバーサルデザイン化 ユニバーサルデザイン化 ユニバーサルデザイン化	ユニバーサルデザイン化、バリアフリー化による利便性の向上
交通特性	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通との連携強化 ・安全性の向上 	ユニバーサルデザイン化 安全性・快適性向上	陸上交通との連携強化による利便性の向上 港湾・船舶等の施設・設備の改良
観光特性	<ul style="list-style-type: none"> ・大分市、別府市を訪れる国内外観光客への対応 	ユニバーサルデザイン化	公共交通関係情報のユニバーサルデザイン化
利用実態	<ul style="list-style-type: none"> ・旅客ニーズの多様化への対応 ・環境思考・衛生思考への対応 ・船旅の魅力を伝えるためのPR 	安全性・快適性向上 安全性・快適性向上 安全性・快適性向上	船舶の機能・利便施設の改良 船舶の環境負荷軽減や省エネ化のための対策 企画旅行商品や観光PRの強化

別府観光の父 油屋熊八翁

大分・別府都市圏の対岸の愛媛県とは古くから海を介した交流が活発であり、愛媛県宇和島市出身の油屋熊八翁は大正時代、別府市においてホテル事業、バス事業（現・亀の井バス）を開き、日本最初の女性バスガイドによる定期観光バスを運行するとともに、関西航路を運航する大阪商船（現・関西汽船）に占用棧橋の設置を実現するなど、この地域の観光振興に尽力し「別府観光の父」として市民にも親しまれている。

施策の方向	事業の概要	事業の目的
別府港及び八幡浜港の施設整備	別府港防舷材改良	既存の防舷材の対応能力不足に伴う減速接岸や老朽化に伴い生じている欠航リスクを解消し、安定的に安全で円滑な接岸を行う事が可能。将来の船舶の大型化にも対応。
	発券システム改良	別府港、宇和島港の発券システムをカード決済が可能となるよう改良し旅客の利便性向上を図る。
船舶等の機能・設備の改良	ウォシュレット設置 (えひめ、おおいた、さくら、あかつき2)	船内の快適性を高めることにより、フェリーの利用促進を図る。
	衛星デジタル放送対応テレビを設置(おおいた、さくら)	航行中に映像の乱れを解消することにより旅客に快適な船旅を提供する。